



情報ギャラリー第25号
 発行日 2004年1月27日
 編集 グループ“わ”広報部
 発行者 赤司 松美
 発行元 神戸市シルバークレッジ
 社会還元センターグループ“わ”
 TEL(078)743-8101 FAX(078)743-8103
 Eメール gallery@wa-net.jp
 ホームページ http://www.wa-net.jp

2004年の年頭にあたって

グループ“わ”代表 赤司 松美



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は“わ”の活動、運営にご協力とご理解を戴き誠にありがとうございます。厚く感謝申し上げます。年頭に当たり挨拶かたがた本部として下記重要事項について報告させて戴きます。

1. NPO法人格取得見通しについて

現在の各会員の活動を基盤とし、組織として更なる活動と発展を目指して1昨年より検討して参りましたNPO法人格取得については、昨年12月に会員への説明会を終え、NPO検討委員および運営委員を発起人としてNPO発起人総会で最終審議承認を得て同12月24日、県へ正式に申請を行い、今年1月23日、正式に受理されました。2ヶ月間公開されて4月末には承認の見通しであります。任意団体より法人格団体への移行準備については万全を期しさらなる発展に努めることといたします。

2. ボランティア活動による傷害、賠償保険の選択について

“わ”のボランティア活動による事故による会員の傷害補償、会員および団体として賠償責任を負うことによる損害を補償する適切な保険はないかと保険検討委員会で検討し12月の運営委員会で検討結果を提案し審議の結果、平成16年度は、あいおい損保の「NPO総合保険」を選択することに決定しました。詳細は別項「ボランティア保険に関する重

要事項の案内」を参照ください。

3. FFPイベント協力支援の報告

フルーツフラワーパークでは一人でも多くの人に利用されることを目指して努力されています。その一環として昨年11月23日～30日の8日間、「スローライフ」をテーマとしたイベントが開催されました。開催に当たりそのイベントの協力支援を依頼されグループ“わ”として11月23日(日)オープニングシンポジウムの「スローライフを語ろう」のパネラーとして代表が参加したのをはじめ、11月24日(月)の「中高年男性の料理教室」、11月25日(火)のニュースポーツ体験での「スカイクロス」、11月30日(日)の「昔あそび」をそれぞれ銀の匙、いきがい部会、文化部会のグループが企画打ち合わせから協力し、豊富な経験やノウハウを生かし主催者の期待に十分応えることができ、さすがグループ“わ”との評価を戴き、体験参加者にも多くの感動を与え感謝されたことを報告いたします。イベント協力支援のグループの皆様には紙面を借りてお礼申し上げます。なおフルーツフラワーパークからは今後共“わ”の協力を熱望されています。

4. 「神戸ふれあい工房」運営団体応募について

神戸市社会福祉協議会では神戸市内の障害者の授産施設や小規模作業所棟で製作している授産品をデュオ神戸地下街で販売したり作品を展示する「神戸ふれあい工房」店舗が開設から4年が経過し、事業のより効

率的な運営をめざすために新たにH16年度運営団体を募集することになり、グループ“わ”にも運営団体として正式に応募要請がなされました。最終的には応募団体の中より書類審査、プレゼンテーション、ヒヤリングの上、選出し2月中に内定されることになっています。

現在店の体制は責任者1名、販売員2名、計3名が営業時間中常駐する体制で運用されており、原則として毎月第3水曜日および年末年始を除く毎日が営業日であり、営業時間は午前11:00～午後7:00、土、日、祭日は午前11:00より午後8:00であります。売上額の2割(H14年度売上総額約3千百万円)が運営団体の人件費および運営経費に充当される予定とのことです。

有償とはいえ、その営業日、営業時間に対応した責任者、販売員を配置し1年間円滑な運営管理に支障のない組織体制が責任を持って取れるか否かが「応募する、しない」のキーポイントになります。

本部からは昨年末、郵送で1月9日ㄨで全会員に「ふれあい工房」従事希望者を募りました。その結果、責任者候補の管理従事希望者4名があり、その希望者と取り急ぎ1月13日協議をし、検討を重ね、見通しを立てた上で必要であれば更に販売員希望者とも打ち合わせして、組織体制の見通しが立ちましたので、1月26日のプレゼンテーションに応ずることといたします。

どうぞことしもお協力、ご理解を賜りますようお願いいたします。

本部

ボランティア保険に関する 重要事項の案内

「ボランティア保険」全員加入 「NPO総合保険」への変更のお知らせ！

現在“わ”会員の皆様には「ボランティア保険^{注1}」に全員加入して頂いております。この方式には種々ご批判もあり、「保険問題検討委員会^{注2}」を設け「ボランティア保険」に代わる保険の検討を行ってまいりました。その結果下記の通りあいおい損害保険(株)^{注3}(以下「あいおい損保」)の「NPO総合保険」(以下「NPO保険」)が最適との結論に達し“わ”運営委員会(12月開催)においてH16年度は 皆様が保険契約者である「ボランティア保険」に替わり、“わ”本部が保険契約者になる「NPO保険」を採用することに決定したので 注意事項等を含めご案内致します。

1. H15年度「ボランティア保険」を全員加入とした理由

会員の皆様が“わ”が関係するボランティア活動に従事している際、万一賠償責任事故を起こして(養護施設で老人介護中に大きなケガをさせた場合等)当事者本人のみならず“わ”本部が賠償責任を追及された場合“わ”には賠償金の支払能力がないため、とりあえず会員全員に「ボランティア保険」に加入頂いておけばボランティア活動中に発生した会員ご自身の傷害のみならず賠償責任も「ボランティア保険」でカバーされるので“わ”本部に求償が及ばないと苦肉の策で、全員加入に協力頂いていました。

2. H16年度以降「NPO保険」採用の理由

しかしボランティア保険全員加入の便法には“わ”制度改正説明会や“わ”総会においてご批判もあり(自分で然るべき損害保険を付保しているのに何故改めて保険料を払って保険を掛けなければならないのか等)新たな保険種目の研究に「保険問題検討委員会」を設けて検討を行ないました。その結果、あいおい損保の「NPO保険」は“わ”が関係

するボランティア活動中の“わ”会員自身の賠償責任・傷害事故をカバーすると共に、前項で述べました“わ”本部の賠償責任をもカバーするので現状においては最適な保険との結論に至りました。“わ”本部を保険契約者、“わ”会員全員を被保険者としてH16年度以降あいおい損保と年間契約するものです。保険料約20万円は年度初めに暫定払いし、年度末に会員数の増減や活動実績に応じて精算します。

3. “わ”年会費との関係

H15年度からボランティア保険料込みで1500円の年会費を頂いていますが、昨年12月5日開催の「NPO法人格取得説明会」で説明の通りH16年度も年会費は1500円を頂く予定にしております。(本年5月開催予定の“わ”NPO移行総会での決議事項)

H15年度はボランティア保険料500円を年会費に含めて徴収しましたが、幸い予算の都合がつきH15年度に限って従来通りボランティア保険料の大半を負担して貰えたので皆様から頂いた年会費は僅かな部分をボランティア保険料に充てただけで年会費の大半は“わ”本来のボランティア活動を中心とする“わ”運営経費に充当させて頂きました。

H16年度予算の詳細はこれから鋭意検討することになりますが、H15年度の“わ”活動に必要な経費およびH16年度の新たな諸活動を考えると会員1名当たり約3000円の経費を要することになるので、各種助成金や“わ”活動の収益金収入を見込むにしても、年会費1500円を頂かないと“わ”の収支が償わない現状をこの機会にご理解頂きたく存じます。

4. 「NPO保険」の補償概要

“わ”が関係するボランティア活動中に生じた“わ”会員の傷害事故については通院1日当り5千円、入

院1日当り8千円、“わ”会員自身および“わ”本部の賠償責任事故については1事故2億円までの保険金が出ます。傷害事故死亡その他詳細は紙面の関係で省略します。

5. ご注意いただく諸点

“わ”のボランティア活動中の自動車運転・搭乗中の傷害事故は自動車保険のほかに「NPO保険」でも上記入院・通院日額が保険金として支払われますが、対人・対物賠償責任については「自動車保険」の守備範囲で、「NPO保険」からは保険金は出ません。

“わ”が関係しないボランティア活動に“わ”会員が従事中に生じた傷害・賠償責任事故は「NPO保険」の対象外なので 会員各位の自己判断で各種社会福祉協議会の「ボランティア活動災害共済」や一般の損害保険会社の傷害保険や個人賠償責任保険を付保されるようお勧めします。

「個人賠償責任保険」の場合免責条件として「職務遂行に起因する賠償責任事故には保険金を支払わない」との規定があるため日常仕事のようにボランティア活動に従事なさる会員は念のため各種社会福祉協議会の「ボランティア活動災害共済」を掛けておかれることをお勧めします。

以上内容が濃く、かつ複雑な諸点を限られた紙面でご説明しましたので、ご理解が行かぬ点、その他疑念があればご遠慮なく“わ”本部赤司代表または黒田副代表までご照会下さい。

*

注1: 正式名称は「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済」、神戸市社会福祉協議会の共済保険で、引受損害保険会社は三井住友海上火災損害保険株式会社

注2: 保険問題検討委員会は“わ”運営委員会の下部組織として昨年6月設置、委員は“わ”代表、副代表、および在職中損害保険業務を経験した“わ”会員2名などで構成

注3: 最近の損害保険会社体質強化策の一環で大東京火災と千代田火災が合併した新会社

本 部

音楽療法講座の反響

国6-本 黒田 宏

2002年12月、市民病院のクリスマス・コンサートに友愛訪問を兼ねて参加しました。このとき院長先生が“音楽療法”に関する所見として、既に痴呆が始まっている患者さんが歌詞を見ながら皆と一緒に唄っているのを見て“音楽療法”の効果を述べられました。これが今回の講座開催のきっかけです。

予定人員の2倍の応募者があり抽選により約半数の45名が第1回の講座に参加。皆さんから大好評を得、3日間の講座を終了しました。中には「事務局の発想が素晴らしい」と言う賛辞まで頂き“わ”事務局としても引続き抽選漏れの方を対象に第2回目の講座を開催する予定です。友愛訪問が比較的多い“わ”のボランティア活動には、書道による療法や絵画による療法等の講座もあるので逐次検討をして行きたいと思っています。

なお終了後アンケートを書いて頂いたので纏めたものを以下に報告します。

*

1. 今回の音楽療法講座は

良かった：26名

普通：6名

良くなかった：3名

無回答：10名(含む欠席者)

出席者：第1日目 = 44名、

第2日目 = 36名、

第3日目 = 37名

2. どのような点が貴方の活動の参考になりましたか？

(主なものを掲載)

対象者に接する心遣い・心構え・態度の大切さ。また対象者の視点を間違えないこと。

対象者も一緒に楽しめる工夫をする。例えば、簡単な楽器を利用して一緒に合奏する(極簡単なルールを準備する)。



対象者とのコミュニケーションの必要性
セッションのあり方、進め方、留意点
音楽と「高齢者の心理学」の関係

3. 今後あなたの活動にどのように生かされますか

(主なものを掲載)

既存の楽器でなくても手製のものを利用する。(ただし口に入れたりする危険のあるものは駄目)

「聴かせてあげる」でなく、対象者の表情・仕草に関心を持ち、同じ目線で話しかけるような心がける。

教わった「ハロー・ソング」(初めに唄う歌)や「また今度」(最後に唄う歌)を実践に採用する。

現在実践しているカラオケ会や絵画の会でも講座で得たものを積極的に採用する。

4. 1で と回答され方に伺います。どの点が良くなかったですか？ (いずれかに をして下さい)

難しかった 1名

3回は多すぎた 1名

その他(貴重な経験。楽器の

使い方が参考になった。欠席した場合の交代制について。その他) 1名

5. 今後どのような講座を希望しますか

さらなる専門知識を勉強したい。

脳や神経の老化を防ぐ再活性化をしてくれるような講座。

実践に役立つパターンの勉強。

シルバーカレッジで Music Bell・Tone Chime のグループを立ち上げて欲しい。

実践を見てみたい。

対象者に適した具体的な選曲、歌に合わせた動き(踊り等)について、楽譜を使っの講座、音階・和音等について勉強したい。

真理に関すること。

今後もこのような講座を希望する。

回数を増やして欲しい。

非常に良かったので次に何かを考えて欲しい。

このような講座は多くの人に受けて欲しい。

聴講者による実績の発表会はいかが？

環境部会

親子で集まれ

ケナフ紙すき塾パート

生8-環 佐藤 昭三

(財)長寿社会開発センターの助成で「地球温暖化防止とケナフ」をテーマに「ケナフで年賀状をつくろう」のイベントを“わ”本部主催、環境部会ケナフの会協力で、平成15年11月29日(土)、しあわせの村内野外活動センター「あおぞら」で行った。

参加人員

当日は、30年来の季節はずれの台風の影響を受けて、朝から風雨が強く心配したが、36家族102名の申込みに対し、30家族80名の参加があり、「あおぞら」の2室を使い、クラフト室では紙すきを、ミーティング室では紙芝居、紙すきしたケナフはがきにお絵描きしての年賀はがき作り、作品の発表などを行った。

主催側は中島実行委員長、赤司代表、“わ”本部スタッフ、環境部会ケナフの会、在校生ケナフの会のメンバー計約35名が出席し、諸々の準備、指導をした。

実施状況

当日は「アースパル神戸」も本イベントに参加され、次の順序でイベントを行った。

(1) 神戸市環境局の中村係長より、アースパル神戸の概要と地球温暖化に対する神戸市の取組み等の説明があった。子供たちには少し難しかったが、お母さん、お父さんには大変参考になるお話であった。

(2) 紙芝居

ケナフ紙すきに当り、まず「地球温暖化はどうして起るのか、起きるとどうなるのか、温暖化防止のため身近にできることなど」および「ケナフとはどんな植物か、何に使えるか、地球温暖化防止にケナフはどんな働きをするのか」を子供たちに分って貰うため、ケナフの会が創作した紙芝居を約20分行った。午後に行ったふりかえりシートやふりかえって見ようの発表で多くの子供たちより、「地球温暖化、ケナフについ



て関心が持てた」「ケナフを作って見たい」「電気、水を節約したい」等の感想が述べられ、我々が期待した以上の成果があった。

(3) ケナフによるはがき紙すき
準備したケナフパルプを用いて、子供1人当りはがき2枚ずつの紙すきを行った。会場には6テーブルを準備し、各テーブルに5家族、指導員2名の配置で紙すきを行った。最初の1枚を指導員がやり方を説明しながら紙すき見本を示し、後は子供たちが自ら紙すきを行うように指導した。子供たちやお母さん、お父さんも、ほとんどが初めての紙すきで、親子共々熱心に紙すきをして、物作りの喜びを体験したと思う。

うまくできたときの子供たちの笑顔、またそれを見るお母さん、お父さんの安堵感、我々指導員にとっても大きな喜びとほっとした気持ちを与えてくれた。

午前中は紙すきで終り、コープより借用した簡易ヤキイモ機を使って朝から焼いたヤキイモを昼休みのおやつとして、子供たちに1ケづつ配布した。

(4) 年賀はがきの作成

午後からはまず午前中に作ったケナフはがきに12色ボールペンを使って、子供達がお絵描きをし、年賀はがきを作った。新年のえとの申を描く者、ケナフを描く者、地球温暖化を描く者、家族の顔を描く者等々それぞれが思い思いの絵を描き、全

員が年賀はがきを作りあげた。子供達にとって思い出に残る年賀はがきが作れたと思う。

(5) 作品発表とふりかえって見よう
中島実行委員長の司会で作った年賀はがきの作品発表と1日をふりかえっての感想が子供達、親から活発に述べられた。

親子共々紙すきは大変楽しかった。子供にとって記念になる年賀はがき作りができた。

地球温暖化とケナフについて、紙芝居により色々なことを知ることができ、大変役に立った。

家に帰ったら、電気や水を節約したい。来年はケナフを植えて見たい等の感想があった。

所感

ケナフは1年草で成長時、針葉樹の数倍の二酸化炭素を吸収し、また、刈取り後は良質なパルプが得られ、森林破壊も防止でき、地球温暖化防止に役立つ植物である。

今回のイベントは「地球温暖化とケナフ」をテーマに親子でケナフ紙すきを楽しんで貰うと同時に地球温暖化の大切さを知って貰うことをねらいに行い、親子共々紙すきの楽しさを体験し、また地球温暖化とケナフを理解して頂いたと思う。我々にとっても3世代の楽しい交流ができた、意義ある1日であった。

イベントにご協力頂いた“わ”本部、環境部会ケナフの会の皆様へ感謝申し上げます。

環境部会

神出自然教育園餅つき大会

園5-環 田波久紀夫

快晴の昨12月25日に神戸市立神出自然教育園で親睦餅つき大会が開催された。

長年にわたって、ここでボランティア活動をしている環境部会の五園会、銀の匙、七園会のメンバーと園芸専攻の六園会ならびに在校生など約80名が参加した。

ここでは各グループが月1回、曜日を決めて合計約120名/月、年間では1500名以上の人達が花作りや管理などのボランティア活動をしており、これらのメンバーがいなければ、自然教育園の管理運営は成立たないといっても過言ではない状況である。

餅つき大会は毎年開催されているが、本年は参加者が最も多く、大変賑やかであった。

自然教育園で用意した45kgのもち米は銀の匙(食文5期)の方々が前日にといて準備して頂き、当日は薪を燃やして蒸籠で蒸上げて、3個の石臼で搗いた。



年齢を考えて肩や腰が痛くならないように早めに交代して、賑やかに搗いた。

搗きあがった餅は女性軍が主になって、あん餅、きな粉餅などにまるめ、味見もしながら、お昼までにはすべて搗きあげた。

昼食は銀の匙(食文5期)のメンバーに準備してもらったブタ汁とおにぎり、搗いたあん餅などを園長や職員の皆さんと一緒に、和やかに美味しく頂いた。

腹いっぱい食べて、さらには、お土産に搗いたあん餅とプリムラの花苗をいただき、楽しい一日を過ごすことができた。

年末の楽しい定例行事として、今後も続けて頂けることを願っている。さらに希望を言わせてもらうならば、メンバーのお孫さん達も参加できるようになると、より楽しく、賑やかになるのではないだろうか。何はともあれ、ケガもなく、無事に終了できたことは本当に良かった。

参加された皆さん、特に前日の準備もして下さった銀の匙の皆さん、本当にご苦労様でした。

その後、肩や腰は痛くならなかったでしょうか？

8期生による

グループ学習合同発表会

2月27日(金) 10:00 ~ 16:00 カレッジホール

開学以来初めての試みとして各コース(専攻)共同で、グループ学習の成果を発表する機会を設けました。

卒業生、地域の方々お誘いの上ぜひご参加ください。申込みは不用です。内容についてはカレッジ事務局 078-743-8100 にお問い合わせください。



環境部会

親子で集まれ

自然遊び塾パート4

生4-環 谷口 博

親子で集まれ！自然あそび塾パート4は里山体験をテーマにして2003年10月19日(日)10時~15時、シルバーカレッジ里山で開いた。当日は晴天に恵まれ、親子20組57名を迎えて、楽しい1日を送った。

“わ”本部8名、里山クラブ10名からなるスタッフは8時50分に集合、テント設営、机・椅子・シート・電源・その他を搬出して会場作りを終え、参加者の到着を待つ。

10時受付開始、受付の終わった人はシートに席を取り待機。全員が揃ったところで本部からこの日の催しについての説明と連絡や注意があり、ついで里山での活動や入山するときの注意を簡単に行い、オリエンテーションを終える。

10時20分、里山についての楽しい紙芝居の開演。小さな参加者は熱心に紙芝居を見てくれる。

10時40分、いよいよ里山に入山。「昆虫のすみか」の前に集まり、地面に腰を下ろして「山」を体感してもらう。スタッフが里山の由来と、カレッジの里山づくりの今日までについて説明をする。

体験 一同目を閉じじっと耳をすませる。小鳥の声、風の音、木々のざわめき...にひと時を過ごす。こんな体験は初めてではないだろうか？

体験 いよいよ山の中を自由に歩き、木に触れたり、草花を手にとったり、ドングリを拾ったり楽しそうに活動してくれる親子。はじめは恐る恐る歩いていた子らも、そのうち走り回る子も出てきた。切り株やイバラ類がたくさんあるので事故が起きないか心配したが、それもなくて夢中になっている。これが自然なんだ。草の実がズボンに付いているが気にせず楽しんでくれている。実はこんな体験がさせたかったので、あゝよかったと思った。1時間半がまたたく間に過ぎた。

12時、昼食と休憩。里山の中や

芝生の上で済ませる。

12時45分、午後の活動に入る。リース作り班、名札作り班、木の実やマツカサなどでのクラフト作り班に分かれて活動する。スタッフの集めたリースの材料やクラフト材、工作用具その他でスタッフと共に親子で熱心に夢中になって作業が進む。

アイデア豊かな作品が次々にできあがり、親と子そしてスタッフが歓声を上げている。午後3時、名札りをおしみつつ終了。

きょうの自然遊び塾、里山についてのふりかえりをして完了。さてどれだけ里山について関心を持ってくれただろうか。事故なく終了したことはスタッフの皆さんのお蔭。後片付けを済ませて催しは済んだ。

いきがい部会の 則武 さん 神戸市環境功労賞を受賞



グループ“わ”会員の則武 勲さん(生環4期)は長年の地域環境保全活動の功績により昨年10月26日(日)、神戸市長より環境功労賞を受賞されました。

爽春の 江南景勝地と上海

紹興・杭州・烏鎮・蘇州・上海を訪れて5日間

出発日：平成16年3月11日(木)

旅行代金：59,800円(お1人さま)

添乗員：同行しお世話いたします

募集人員：30名様(最小催行人員20名様)

申込締切日：出発日の1カ月前



日	都市名	現地時間	交通機関	日 程	
1	関西空港発 上海浦東空港 (上海泊)	18:35 20:05	NH153 専用車	夕方 関西国際空港より上海へ 到着後に、ホテルまで案内 宿泊 上海遠洋賓館クラス	☒ ☒ Z
2	上 海 紹 興 杭 州 (杭州泊)		専用車	朝食 ホテルにて 専用車にて紹興へ(約3時間) 昼食 紹興料理 蘭亭,紹興酒工場 その後、杭州へ(約1時間) 六和塔をご案内 夕食 杭州料理 宿泊 百合花飯店	朝 昼 夕
3	杭 州 烏 鎮 蘇 州 (蘇州泊)		専用車	朝食 ホテルにて 西湖遊覧,烏鎮へ(約1時間) 昼食 烏鎮田舎料理 水郷烏鎮観光 藍染工房その後蘇州へ(1時間) 夕食 蘇州料理 宿泊 蘇州飯店クラス	朝 昼 夕
4	蘇 州 上 海 (上海泊)		専用車	朝食 ホテルにて 拙政園,虎丘,寒山寺,刺繍シルク研究所などご案内 昼食 蘇州郷土料理 (上海へ約1時間) 夕食 上海蟹料理 宿泊 上海遠洋賓館クラス	朝 昼 夕
5	上海浦東空港発 関西空港着	17:20 20:15	専用車 NH154	朝食 ホテルにて 豫園,豫園商場、新天地,黄浦公園をご案内 昼食 緑波廊にて点心料理 夕方 上海より関西空港へ	朝 昼 Z

お申込・お問合せ：“わ”事務局 078-743-8101 または大坪 078-709-2484

文化部会

文化部会だより

国6-文 芝野 公男

文化部会に登録されている会員数は本部の調査で392名です。登録されているボランティア活動グループは24グループです。ところが文化部会員であってもこの24のグループのいずれにも所属していない方が、昨年9月の時点で98名も居られることが分かりました。登録グループに入っていないなくても、個人あるいはグループで熱心にボランティア活動をしている方の居られることは分っていましたが、大部分の方達はそうでないように思いましたので、この人達の文化部会に対する考え方や希望を知ってその活動の手助けをし、文化部会活動の活性化に役立たせたいと思いアンケート調査を行いました。その結果の要約を右に記しました。

以上の結果に先ず驚いたのは文化部会に入った覚えはないとか、ひどいのは“わ”に入った覚えがないという回答を寄せられた方のあったことです。ただなんとなく入ったとか、頼まれたので入ったとか、他の部会と間違っで登録してしまったという回答を寄せられた方も結構ありました。本部の過去のデータの管理に問題があるように思えることと、入会時に地区部会と専門部会に関してもう少し丁寧に説明をすべきではないかと思ひます。ボランティア活動に関しては、やりたいけれど自分や家族の健康上の理由から当分はできないと答えた方がかなり居られたのが、我々の世代から見て止むを得ない状況かと考えられます。

文化部会に入ったが、今までどこからも何の連絡もなくどうしようかと思っていたが、このたびの案内で既存の24グループの一つに(あるいは二つ以上に)入会することができるようになったと喜んで頂けた方が10名もいらっしやったことは、今回のアンケート調査の目的の大きな部分が果たせたと私達も喜んでます。また“わ”や文化部会に関する情報が入らないと答

アンケート調査結果の要約

()内数字は%

対象：文化部会員であるが既存の24グループに所属していない人

実施日：平成15年9月～10月

アンケート用紙を送付した人 98名

アンケートに答えず退会の連絡をしてきた人 2名(2)

回答者数 58名(59)

この中で“わ”または文化部会に入った覚えはない

およびこの際脱退したいと答えた人 8名

未回答者数 8名(9)

文化部会以外で所属している部会

福祉部会 16名、国際部会 4名、環境部会 5名、いきがい部会 6名

文化部会に入った理由

何が活動したいと思ったから 23名(40)

ただなんとなく 8名(14)

その他 13名(22)

他の部会と間違っで登録した

地区部会の活動を文化部会活動の一部と考えていた

地域で文化部会的ボランティア活動をしていたので

入会を頼まれたので

未回答 14名(24)

現在ボランティア活動は

している 21名(36)

していない 37名(64)

その理由は

事情があつてできない(病気や家族の介護等) 15名(41)

他の部会やグループの活動で手一杯 12名(32)

その他 10名(27)

文化部会に対して今後どう考えるか (重複回答あり)

既存のグループに入りたい 10名

新しいグループを作りたい 3名

他の部会で活動するので文化部会活動は出来ない 7名

当分は活動できない(体調不良等) 13名

その他 12名

“わ”や文化部会に関する情報の入手経路は

情報誌「ぎやらりー」 19名(33)

”わ“のホームページ 5名(9)

友人・知人 16名(27)

情報は入らない 17名(29)

未回答 1名(2)

えた方が29%も居られ、情報を友人や知人から得ていると答えた方28%と合わせると半数以上の方が情報誌やホームページから情報を得ていないという状況をどう考えたらよいのでしょうか。

このたびのアンケート調査では、まだまだ会員のニーズを十分に把握でき

たとは言えません。

回答して頂けなかった38名の方は文化部会や“わ”に対してどのようにお考えなのか分かりません。すべては今後の課題だと思います。最後に回答をお寄せ下さった58名の方のご協力に対してこの紙面を借りて心よりお礼を申し上げます。

東灘区会

皆さんの協力で確かな手応え

音5-東 藤井 潤子

毎月1回一緒に唄っています

特別養護老人ホーム「サンライフ魚崎」でデイサービスを利用されている35～40名の人たちと一緒に唄っています。2002年9月から始めて1年と少し、毎回季節の唄を2、3曲入れてナツメ口から唱歌、童謡など1日8～9曲位を30分程の活動です。



ピアノ伴奏で唄のお稽古

ホームの皆さんと同じ歌詞カードを準備し、田辺さん(音文6期)が編集したテープの伴奏で私たちも(毎回8～12名参加)皆さんと一緒に唄っています。

始めはなかなか馴染めなくて歌詞カードのファイルも見てくれなかった人が、やっとファイルを開いてくれて、詩を追いながら口の中が少しずつ動いて月を重ねるにつれ小さな声で、やがて大きな声を出して私たちと眼を重ねて唄っているのを発見して、あ、やっとコミュニケーションもとれたのだなあ、嬉しく思いました。

小埜さん(音文6期)のピアノ伴奏があって唄う時は、皆さんいつもより生きいきと、より楽しく唄っておられます。私たちも皆さんの傍に行き一緒に唄うことで、より親近感を持ち、若かりし頃を懐かしみながら快い気持ちで「また来月来てね」の言葉に見送られて帰っているきょうこの頃です。

このたびグループ“わ”が主催する音楽療法についての講義を受けて



KSC男声合唱団の皆さん

いますが、これらも合わせてこれからの活動に生かせたらと考えております。

クリスマス会で慰問活動

施設を利用している方々の楽しみの一つにクリスマスに行われる色々な行事があります。昨年は「サンライフ魚崎」のステージに「KSC男声合唱団」34名もの皆さんが慰問に来演し、小埜さん指揮のもと大勢の入所者を前にして力強く、また絶妙のハーモニーを披露して下さいました。クリスマスソングに続き「喜びも悲しみも幾年月」「見上げてごらん夜の星を」など聞きなれた曲が合唱されるたびに大きな拍手の連続でアンコールの声も飛び出すほどの盛況でした。



楽遊クラブ銀雅の皆さん

引続き目も鮮やかな衣装をまとった「楽遊クラブ銀雅」のメンバーによる銭太鼓の演技が「鹿児島おはら節」「花笠音頭」「河内おとこ節」などの心地よいリズムに乗って演じられ皆さん手拍子打って楽しいひと時を過ごして頂きました。



表彰・サンライフ魚崎にて

また一昨年に引続きこのクリスマス会で、東灘部会としてこの1年間同施設で行ってきた色々なボランティア活動に対して感謝の賞状と記念品を頂戴しました。これも一重に皆さま方のご協力のおかげと、心より厚くお礼を申し上げます。



清流のみちウォーク

生4-東 廣川 幾雄

絶好の秋晴れとなった10月9日東灘区恒例の“区内をもっと知ろう”ウォーキングが行われた。午前10時住吉駅に集合した一行14名は先ず本住吉神社に参拝した後、神社資料館を見学した。ここには住吉神社をはじめ菟原郡の古い資料が展示されている。JRのガードをくぐって震災後モダンな建物になった阿弥陀寺をちょっと見て有馬道を北へ進む。この道は明治時代、住吉から六甲山を越えて有馬温泉へ行く道だった。

有馬道と彫られた古い石碑を見て、六地藏、柿の木地藏を見て水車へ。江戸時代から明治にかけて住吉川には無数の水車が設造され、油絞みや米の精白に利用されていた。昨年山田公民館横に新設された2基の水車が元気良く回っているところを見てさらに北へ進み、白鶴美術館となりの徳本寺へ着く。

ここは土地の有力者、吉田道可が

入村人の教化のため紀州から徳本上人を招いて建てた寺である。ここから折り返して下りは住吉川の川床、清流のみちを歩く。

土砂運搬のダンプ道路として開発された川の両岸の道は整備されて、今は良い散歩道になっている。

住吉川がJRの線路の上を流れている天井川のあたりで再び地上に上がり、区役所裏の水車の説明板のところで12時解散。



清流のみち白鶴美術館付近で

満開のコスモスを愛でながら秋風に頬をなぶらせて歩いた好天の半日だった。

中央区会

マジックで施設を慰問

生6-中 中川 安庸

中央区在住の私たち「KSCマジック同好会」OBとカレッジ在学中の同好会有志、森田さん(国際8期)たちと機会があれば区内の施設などを訪問して日頃の修練の成果を施設利用の方々に披露して喜ばれている。



手品の豆知識

手品の起源は紀元前二千数百年前頃、エジプトの洞窟壁画に「三つのカップ」と「三個のボール」を使ってカップの中でボールを消したり現したり、またカップの底からボールが抜けたりする手品が描かれているのが、始りであろうと考古学者が云っている。

日本へは奈良時代の仏教伝来と共に伝えられ、江戸時代に歌舞伎の舞台などを通じて見世物として大衆化され現代に至っている。

今回は昨12月24日(水)クリスマスの飾りで、華やいた雰囲気の中、ハット神戸6号館に隣接した脇浜高齢者介護センターを訪問した。軽妙なバックミュージックに乗せて、次々と演じる私たちの目新しいマジックに会場は歓声と拍手にあふれ、施設利用者の方々は大喜びであった。

40分程の短い時間ではあったがこのたびも訪問して良かった、これからもこの活動をできるだけ継続して行こうと充実感に包まれながら帰路についた。 ◆ ♣ ? ♣

兵庫区会

兵庫津の道 観光ボランティア

福1-兵 三島 重春

兵庫パンジーの会ではかねてより、「JR兵庫駅南地区での観光ボランティア」を組織的に行うことを討議してきましたが、昨年10月に兵庫区役所から3件の依頼があり4・5期生が中心になって、そのうちの2件に対応しました。

10月18日に実施された兵庫区とJR西日本共催のイベント「兵庫区歴史花回道ウォーク」参加者と、10月28日に来神した静岡県地区学校関係者団体に兵庫運河や津の道周辺史跡を案内して永年語り継がれた伝説や兵庫の歴史などを説明しました。

当日の活動内容は「区民広報紙ひょうご」12月号にも紹介され、参加者からはわかりやすい説明で大変

好評であったこと、またグループ“わ”の活動記事もあわせて掲載されました。

このボランティア活動が成功にこぎ着けるまで、事前に幾度も勉強会を重ねられた高田さん(生環5期)をはじめ多くの会員の方々本当にご苦労さまでした。



自立センターひょうごで 茶道のお稽古

国3-兵 吉岡 乃夫子

兵庫パンジーの会有志と、カレッジ在学中で茶道部所属の住本さん(福祉8期)木邑さん(美工9期)たちと協力してJR兵庫駅南側東部にある「自立センターひょうご」で茶道のお稽古を毎月第1、第3の月曜日に平成11年頃から欠かさず続けております。

対象は施設利用者のうちの希望される方で、もともと自立センターでは色々な手芸のほかクッキーの調理などをも日常のプログラムに取り入れて、情操面の啓発に努めておられますが、私たちもお稽古を通して豊かな心と、礼儀を学ぶ心構えのお手伝いになればと思っております。

当初は薄茶の前に出される和菓子だけを楽しみに参加の方もあったようですが、最近では熱心にお稽古される方も増え、私たちも大変心強く、やり甲斐を感じて続けています。

左から木邑さん、住本さん、吉岡さん



垂水区会

垂水区だより

福6-垂 芦原 耐子

垂水会旅行懇親部会で播州路日帰り

2003年の垂水会懇親旅行は10月22日(水)に行いました。2台のバスに分乗した一行69名は8時30分、垂水漁港前を出発、布施畑ICから山陽道に乗り、途中2箇所の休憩の後、建設中で一部開通している播磨道を北上し、播磨科学公園都市に着きました。ここで展示施設オプトピア、大型放射光施設スプリング8、先端科学技術支援センターを見学した後、支援センターの多目的ホールで建築家ピーター・ウォーカー氏設計になる枯山水の庭園を窓外に眺めながら昼食を取りました。



米人が設計した支援センターの庭園

午後は国道を北上し、中国自動車道佐用ICを過ぎ、因幡街道の旧宿場町平福の町並みや武蔵最初の決闘の地をボランティアのガイドで観た後、福崎に移り、柳田国男記念館を見学し、近くの町営もちむぎの館でそばを試食し、お土産を買って全行程が終わり、中身がぎっしり詰まったツアーに満足した一行が播但道を姫路に向かって走った頃は西の山並みに日が沈むところでした。

H15年度神戸市地域活動賞を受賞

昨年10月28日(火)相楽園において生活環境の整備向上に関する活動に対する垂水会241名に栄えある賞状と盾を神戸市より頂きました。概要は「垂水区在住のシルバーカレッジ卒業生で構成されており、



地域活動賞盾

土曜・日曜・祝日にはJR舞子駅周辺で、観光に訪れる人へのガイドを行ったり、毎月20日に駅周辺の清掃活動を熱心に行っている。同年6月からは垂水駅周辺のガイド活動や、福田川周辺の清掃活動も開始した。また障害者等への散歩や車椅子の介助など福祉活動にも取り組んでいる」ということでした。

同年度の受賞対象者は、あじさい賞個人42名、地域活動賞29団体でした。垂水会もその活動賞の内のひとつでした。諸先輩方が培い、努力を続けてくださったものが私達に手渡されたという幸せを感じました。これに際して、シルバーカレッジ事務局長よりお祝いの電報を頂きました。ありがとうございました。また区民広報紙「たるみ」12月号に、吉崎垂水会代表が神戸市長と一緒にの写真が載りました。賞状と盾は「わ」の本部に飾っていただくことになりました。

垂水養護学校トライアルウィークでの交流会

昨年12月5日(金)垂水養護学校の中学2年生10名とシルバーカレッジ福祉部5名、垂水会6名(6期生2名、7期生4名)の交流会が垂水養護学校の体育館において行われました。後日養護学校の先生から次のようなファックスを頂きました。「先週はありがとうございました。はじめてのことなので、生徒達がど

ういう反応をするか不安でしたが、みんながとてもいい表情をして楽しんでいたので、本当によかったなと思います。いろいろと工夫した活動を考えてくださり感謝しております。皆様にもよろしくお伝えください。何かの機会にまた一緒にできたらいいなと思っています。ありがとうございました。中2担任一同」

1時間という短い時間でしたが、参加した我々のほうが感動いたしました。

今年度2回目の垂水区ボランティア大会を終えて

昨年12月7日(日)千代ヶ丘会館で開かれ、出席者68名という大盛況のうちに3時間が過ぎました。日頃の活動報告の後、ボランティア



ボランティア研修会

の体験発表を裏地さん(5期)にして頂きました。沖縄からいらした視覚障害者の女性の方2名に舞子ガイドをされた体験を話されました。聞いている私たちも、温かでその場に居合わせたような気持ちにさせられました。お話が上手ただけでなく、私たちが日頃舞子ガイドや垂水ガイドを体験して、ボランティアとしての喜びを共に感じているからではないでしょうか。後日ピッタリの言葉を福原さん(1期生)より伺いました。「創生易、守成難」。次の世代に譲っていく責任を痛感いたしました。時を違えてシルバーカレッジに学びましたが、垂水区に在住しているということで集まっている皆様とともに、垂水会が益々発展することを祈りたいと思います。

垂水区会

第1回「史跡めぐり」

主催 シルバーカレッジ垂水会史跡探訪部会

国7-垂 左右田 純一

垂水魅力アップ運動の一環としてシルバーカレッジ垂水会史跡探訪部会主催で、昨年11月1日(土)、一般区民も参加する垂水区内の歴史探訪を行った。コースは垂水会員の目下により「海神社 遊女塚宝篋印塔 五色塚古墳 神戸舞子ヴィラ 孫中山記念館 舞子公園(昼食) 明治天皇御製碑 舞子砲台史跡 延命地蔵 舞子六神社 大歳山遺跡」の平坦なコースを採用した。

当日は穏やかな秋日和に恵まれ、参加者数は予想を上回る約120名(小学生2人を含む)となった。

午前10時に小沢昭男(国際6期)リーダーが挨拶、次いでSC垂水会1期生坪田講師により海神社の由緒の説明が行われた後、三班に分かれて出発した。

商大筋を北へ、遊女塚では講師のユーモアを交えた説明で和やかな雰囲気の中、熱心にメモを取る参加者も多く、「商大筋が現在のように整備される以前は、天神川で隔離されていたため、このような史跡の存在を知らなかった」と言う参加者が多かった。

県下最大の前方後円墳である五色塚古墳では、造営にかかわる伝承、規模、埋葬者、五色塚名称の由来な



遊女塚宝篋印塔(左端)の説明を聞く参加者

どの説明があった後、古墳前方部からの美しい瀬戸内の景色を満喫した。参加者の中には「垂水に永く住んでいるが五色塚は始めて」、「この美しい風景の明石海峡が難所だったとは思えない」などの意見が出された。

午前11時15分に古墳を出発、山陽電車の線路に沿って西へ、前身が有栖川宮の別邸だった舞子ヴィラの横を通り、嘉吉の変の戦場となった舞子公園に到着。白砂青松の名勝、舞子海岸の舞子の由来や、神戸の貿易商呉錦堂氏の別荘で中国の革命家孫文が招かれた孫中山記念館(移情閣)の説明があった後、昼食。

午後の探訪は、明治天皇御製碑、幕末の攘夷のための砲台跡から西へ、航海の安全を守る延命地蔵では通行者へ配慮しながら歩道上で説明が行われた。

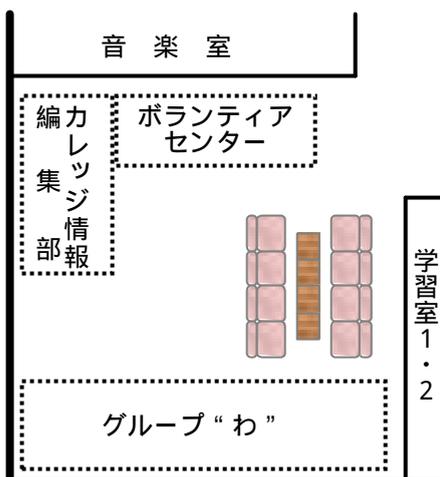
さらに西国街道を西に進み、県下最大の恵比寿、大黒の石像を持つ舞子六神社、西舞子商店街を経て、旧石器時代から弥生時代に渉る複合遺跡の大歳山遺跡に到着。遺跡では丁度地域住民による「大歳山祭り」が開催されており、古代米のおにぎりの相伴に与る参加者もあった。午後2時30分に現地解散する。

その他、垂水会について関心を持っている大学生から垂水会についての質問があり、レポートするため資料の要望があった。参加者の感想として「参加するのは元気な人だからもっと厳しい距離でよい」、「距離は10km以上でも平気(今回は約7km) きょうのコースは毎朝の散歩程度」という声もあったが、「次回も参加したいので計画してください」との意見に元気付けられた。

ついに2階全館禁煙に

あわせて“わ”事務所も模様替え

3学期からカレッジ2階全フロアが禁煙となりました。これを契機に中央廊下北詰のラウンジの喫煙場所が無くなり、ソファなどが北棟東詰(和室前)や図書室前に移されました。これに合わせて“わ”の事務所などを右図のように模様替えし、一番奥にあったボランティア・センターが廊下側に移りました。



学園祭 総合実行委員会から寄付

2003年12月16日、第9回学園祭総合実行委員会(笹井 俊司 委員長)から同年9月27日に行われた第9回学園祭での収益の中からグループ“わ”の活動に資するようにと10万円の寄付がありました。

会員の皆さんにお知らせすると共に、紙上を借りて同委員会に厚くお礼申し上げます。(事務局)

ティータイム

KSC男声合唱団の一員として

音6-文 小西 豊

長かったビジネスマン生活を駆け抜け、60代も半ばを越えた年代で、神戸市シルバーカレッジに入学。このキャンパスで思いがけなく聴いて楽しむ音楽から、自分で演じて楽しむこともできる音楽に变身するきっかけを得た。「男声合唱団」に思い切って参加したことによって、である。以下、「KSC男声合唱団」の現況紹介。

メンバーはカレッジ学生とOBで、平均年齢70歳を越す40人弱の男声コーラス（アカペラ）。ミレニアムの年に設立。ひよどり台センターで、週1回みっちり練習している。この合唱団、地域社会で結構人気があるようで、福祉施設や学校・病院などの招請に応え、昨年も26回演奏した。

初めて参加したとき、目を輝かせて聞いてくれる人、身体でリズムを取っている人を見て感激、こんな楽しいボランティア活動があるのだと知った。しかも駆け出しのわたしにもできる...、これはすごい出会いだった。

ここで、「音楽とわたし」の繋がりを

を少々。本格的な音楽を初めて聴いたのは、ベートーベンの第5交響曲、昭和22年中学2年の時だった。強い衝撃を受けた。クラシック音楽ファンになった。

青春時代は、親しい学友にかなりできるアマのフルーティストがいた。当時の関西交響楽団に1回エキストラ出演するだけで、わたしの1カ月の家庭教師アルバイト分以上を獲得していた。

その友人の影響もあり、無理をし

て時たまコンサートには出かけた。

「うたごえ運動」のはなやかな時代でもあった。「うたごえ喫茶」やスナックでロシア民謡を愛唱した。サラリーマン生活に没頭した期間、FMラジオとたまに行くコンサートが音楽を楽しむすべてだった。

このように音楽は、今日まで常に私の人生に不可欠のものだったが、KSC男声合唱団によって、大げさに言えば「自己実現」の場を得た、そんな気がする。



友愛訪問活動講演会に参加して

楽遊クラブ銀雅 代表

音6-文 藤井 玲子

2003年12月2日、神戸文化ホール大ホールにおいて「友愛訪問活動講演会」が開催されました。主催者（神戸市社会福祉協議会）来賓（神戸市長）の挨拶の後、作家五木寛之氏の「こころの天気図」の講演があり、楽しく有意義なひとときを持つことができました。そのオーブ

ニングで私たち楽遊クラブが銭太鼓演奏をいたしました。

兵庫区ボランティアセンターから出演依頼をいただき、楽遊クラブ銀雅（神戸市シルバーカレッジ卒業生）の会員と在校生の総勢40名が晴れの舞台に向けて猛練習をしました。

1338名の観客を前に演奏曲目は4曲「花笠音頭」「河内おとこ節」「鹿児島おはら節」「男節」。練習のおかげで、40名の息もぴったり「やっ!」「はっ!」の掛け声につれて会場から力強い拍手をいただきました。

大きな舞台に立った経験は新しい曲への創作意欲とこれからのボランティア活動へのエネルギーになったと確信しています。

シルバーパソコン講座のご案内

申込受付：1月30日（金）まで、11：00～13：30 グループ“わ”事務所、
または電話（078-743-8101、ただし会員の方）にて受付けます。

募集人員：“わ”会員8名（参考：在校生20名） 申込者多数の場合は抽選

講習日：Eメール（4回）2月16日（月）～2月19日（木） 15：00～16：30

講習場所：神戸市シルバーカレッジLL教室（2F） ￥3000

市民高齢者パソコン講座のご案内

入門コース 3月22日～同26日 5日間 9：30～12：30 ￥7000

ワード中級 3月29日～4月1日 4日間 9：30～12：30 ￥7000

申込み いずれもハガキで。2月20日消印有効。申込者多数の場合は抽選

申込み先 〒651-1102 神戸市北区山田町しあわせの村神戸市シルバーカレッジ
グループ“わ”宛



“わ”主催イベントの案内

外国学校で「日本の伝統あそびをしよう」!

日時: 2月12日(木曜日) 午後2時15分 ~ 午後3時 **場所**: マリスト国際学校
 同学校ではカリキュラムの一つに毎年「日本文化週間(Japan Cultural week)」として日本の伝統的な文化を生徒に紹介している。今回グループ“わ”の国際部会、文化部会が担当して、昔日本の子供たちが楽しんでいた伝統的な“あそび”を紹介・体験してもらうことにした。
対象: 同校生徒

親子であつまれ自然あそび塾

日時: 2月15日(日曜日) 午前10時 ~ 午後3時 **場所**: 野外活動センター「あおぞら」
しあわせの村で野鳥の観察をしよう
対象: 小学生と保護者 **費用・定員**: 無料・先着25名
申込方法: 参加者氏名、学年、住所、電話番号記入のうえファックス(078)743-8103で申込み

親子であつまれ炭焼体験塾

日時: 3月13日(土曜日) 午前10時 ~ 12時 **場所**: 神戸市シルバーカレッジ
対象: 小学生と保護者 **費用・定員**: 無料・先着25名
申込方法: 参加者氏名、学年、住所、電話番号記入のうえファックス(078)743-8103で申込み

親子であつまれ昔あそび塾(4)

日時: 3月13日(土曜日) 午後1時 ~ 午後3時30分 **場所**: 神戸市シルバーカレッジ
対象: 幼稚園児・小学生と保護者 **費用**: 無料・参加自由

滝谷ホームボランティア募集

募集のあらまし

依頼先: ワークホーム緑友

場所: 神戸市長田区滝谷町1丁目1-17

滝谷ホーム(夢野のコーナンの北側、レストラン「水車」の前)



ボランティアの内容:

知的障害者が自立訓練のためグループホームに宿泊し、その宿泊場所から作業場に通勤しています。グループホームには世話人がおり、ホームの管理、食事の世話を行ってます。ボランティアは、そのグループホームに宿直し、緊急時の連絡対応および世話人の補佐を行うものです。現在は火曜日、水曜日をグループ“わ”メンバーで、他の日は大学生で対応しています。

日時: 毎週 火曜日、水曜日 夜8時から 翌朝8時30分まで

謝礼: 交通費を含めた宿直手当と朝食が出ます。

連絡先: グループ“わ”事務局(078)743-8101(火、金曜日のみ在室)

近郊ウォーキング



1段だけ整然と並べられた丸い石が石臼。160個並んでいる

イヤガ谷東尾根

生4-東 廣川 幾雄

毎月山歩きを楽しんで来た我々の仲間は六甲全山縦走(分割)を達成したほどの元気者ぞろいだったが、バスの優待券を手にする年頃となると坂道が苦手になって来た。

今回は最近歩いた中で一番好評だった道を紹介することにしよう。山登りというより下り専門で、今は芦屋マダムに納まっているミッチーが、震災直後電車が不通の間星和台から都心まで徒歩通勤したという道である。

まず神鉄鈴蘭台または西鈴蘭台から出発する。駅から南へ君影町という住宅地を最南端まで40分ほど歩く。学のあるちびまる子ちゃんによると、鈴蘭の別名を君影草ということから新興の住宅地にこの名がついたという。この君影町の上り坂がコースの中で一番きつい。最南端に東尾根入口の看板があるので、ここから林の中をゆるやかに下って行く。ほどなく名号岩というポイントに着く。これを左に折れて10分ほど歩いた所に名号岩がある筈だが、何も見えないし、危険だから行かない方がいい。1860年ごろ極楽寺の和尚様が旅人の安全を祈って「南無阿

弥陀佛」の名号を独力で岸壁に彫ったという。地元の古い人に聞くと「電車から見えます」というので、電車に乗るたび何十回と目をこらして見るのだが見つからない。それもその筈、ダム建設のため電車の線路が付け替えられ今はトンネルになっている。名号岩は上からも下からも見えない所にある。という事で名号岩をあきらめて先へ進もう。

神戸電鉄の警笛をすぐ下に聞きながらさらに下って行くと、鶴越駅方面と烏原水源地へ行く道とに分かれているが、ここまで来たら水源地へ向かおう。

烏原水源地は1905年神戸市の上水供給のため建造されたもので、石を積み上げて造ったダムは国の文化財に登録されている。昔ここには烏原村という村落があって、村人は水車を利用して石臼を回し線香の製造をしていたが、ダムのため立ち退きを余儀なくされ村は水没したという。当時使われていた石臼が護岸の材料として使用されている。160個の石臼が一列に並んで埋め込まれている風景は壮観で一見の価値がある。

さらにその昔、この道は平清盛が丹生山参拝の道として開かせた道で

あると言われている。すなわち福原から烏原村、名号岩、鈴蘭台、藍那、丹生山というコースである。清盛はこの道を通って毎月丹生神社へ参拝していたという。

湖畔のベンチで弁当を広げ、しばらく散策してダム下の道を川ぞいに下れば石井町である。時間があれば天王温泉で汗を流して帰ることもできる。

編集後記

未曾有の惨事から9年経ち、風化させまいといろいろな市民参加のメモリアル行事が行われましたが、被害を広げた水利不足による火災に対してもう水利設備の整備は万全なのでしょうか。寡聞にしてそのような宣言があった記憶がありません。さて情報ぎゃらりー誌を4回出すと1年が経ちます。どうぞことしもお愛読よろしく願います。(サン)

内閣府の調査によると夫が外、妻は家庭という性別役割分担の意識調査では、賛成・反対それぞれ47%で共同参画の意識の浸透が窺える。しかし社会各分野での地位平等意識では職場25.9%、法律制度上は36%、家庭生活40%、政治においては8.8%にとどまり、諸外国に比し著しく立ち遅れが目立っている。ニッポンは未だ東洋のサムライか。(TS)

ざわわ ざわわ でなくサマワ サマワでイラクと北朝鮮のラチ問題で姦しい。身近なボランティア活動で日が過ぎて行く。日本は平和なんですかねえ。(生)

近年、地球の気温が上昇したせいもあってか、草木や人も熱くなって狂った行動のニュースをよく見かけます。淡路島では水仙の花が例年より2週間も早く咲き、よい香りを放っているという楽しくなるお話、片や仕事が尠ならず気晴らしに危険物を仕掛けたと人騒がせな物騒なお話で紙面を賑わして申年が始まりました。どうせ狂うなら前者の方にお願したいものです。私もみなさんの足を引っ張らないように心がけます。年頭に当たっての抱負です。(ふみ)